

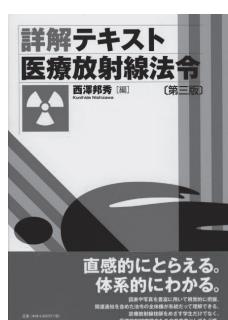


投稿

詳解テキスト

医療放射線法令〔第三版〕

西澤邦秀 編



医療領域において放射線は広く利用されていますが、それらの防護基準の1つとなる法の解説集は多数存在しているとは言えないのが現状です。この度、我が国の放射線安全管理領域において多大な足跡を残している、西澤邦秀、名古屋大学名誉教授が、医療法施行規則に規定

された放射線に関する詳解テキストを編集されたので、ここに紹介します。

一般社会において法令という言葉を知りただけで、敬遠される向きが多い中であって、編者の詳解テキスト医療放射線法令【第三版】の構成は、図表を多く用いる等、まず読者に「視覚的で円滑な法の理解」を促す方式を徹底しています。これにより、法の体系的な理解を読者に自然に促しています。国の法律は立法権を持つ国会で制定されますが、比喩的な表現で言わせていただければ、法律は家を建てる時の設計図のように外観や目標を示すものです。現実には建物を建て始めるには日々の工程表や建築素材・必要人員等具体的な方法が必要になるはずで、この現実的で具体的な例えに当たるものが政令、規則、告示、通知等であり、各種法律の趣旨の実現を図る具体策となります。本書において、法律のピラミッド構造という表現があるとおり、憲法を最上位法として法律、政令、規則、告示、通達（通知）の関係性が緻密に述べられているので、これらの相互関係を初学者にも把握しやすいように、優しい配慮が随所に工夫されています。一般社会では、用語としての法律や規則等が混同して使用されていることが多いですが、編者はこれを整理整頓し一般人にも理解しやすく受け入れやすいように工夫しています。このため、法令の全体像が系統だって理解できるように書籍が構築されています。したがって、本書

は、初学者からプロフェッショナルまで広汎に活用できる書であると言えます。

また、豆知識等を活用して、最新のトピックスを提供する等、読者にどんどん興味を抱かせるための配慮も多数観えます。例えば、様式行為として重要な届出は、新設・変更・廃止等の場合には、必ず行わなければなりません。その際の根拠法を明示し、装置の防護についても図表と共に、詳細に記述されており、読者の立場にたつての執筆姿勢がここでも顕著に表れています。

令和元年となった本年2019年9月1日には、障害防止法や障防法と言われてきた正式名称が「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」は「放射性同位元素等の規制に関する法律」略称別名で「規制法」に名称変更されます。診療放射線技師をはじめとする放射線関係者のどれほどの人たちがこの事実を了知していたでしょうか。こうしたことにも、編者はさりげなく警鐘を鳴らす老獪ぶりも発揮しています。

以上の観点から、この書籍は、学生時代のテキストに使用するだけでは勿体無いです。むしろ実務の医療現場は、「医療法をはじめとする多数の法律で幾重にも取り巻かれている」といっても過言ではないため、現職のプロフェッショナルや放射線領域の管理者が活用すべき書籍とも言えます。

書評者は、放射線関係法規に携わっている者の1人として、編者の本書に込められた熱意と編集の姿勢に、頭が下がる思いでいっぱいです。しかしながら、医療放射線の使用現場には、編者が本書の大部分をさいて詳説している診断領域でのX線使用だけではなく、核医学診療および放射線治療の部門における放射線・放射性物質の使用も広範に行われています。惜しむならば、これらの部門に係わる法の体系的関係をも詳説していただきたかったと言えます。しかし、ここまで望むのは、取扱う放射線の種類やエネルギーに顕著な格差があり、診療室等の構造設備等留意点も大きく異なるので、望外な要求と言えましょう。ただ、本書には付録で施行規則や通知等の全容がほぼ網羅されているので、それらを参照でき補うことができます。これらの点を含めて、本書は、放射線による不要な被ばくの防止・低減を主眼として、医療用放射線を有効に活用していくためのマイルストーンになるということは間違い無いでしょう。

(坂野 康昌 順天堂大学 保健医療学部診療放射線学科 特任教授)

(ISBN978-4-81580-934-8, B5版, 222頁, 本体価格4,500円(税別), 名古屋大学出版会, ☎052-781-5027, 2019年)